



# 刹那詩

12月22日

Sudden Fiction Project

高階經啓  
hirotakashina

## 12月22日のおはなし「刹那詩」

---

前説なんぞ要るまいが、  
こは語り部の排泄なり。  
猥褻なる亡霊どもの  
切なる願いで解き明かす。

王はすべてを眺めていて口を開いた。あれはひどいな。子どもがあんな風にむごく殺されるのを黙っているほどわたしは寛容ではない。王は身を起し、父と母に同時に話しかける。復讐させてやる。どちらがやる？ 目を光らせたのは父親だった。母親には何も聞こえなかった。

父 仮設長屋に身をしずめ  
大切なる者を偲ぶのみ。  
季節など味わうべくもなく  
苦節何年ただ身を鍛ふ。

王は母に問いかける。幼き子ばかりか連れ合いまでも奪ってしまった。あれはもう戻るまい。お前をそのままにしておくわけにはいかぬ。何も見えず何も聞こえるまいが、わたしはお前のそばにいてお前を見守っていてやろう。

母 戻せつながりと云ふも虚し  
目を伏せつなぎたる幾年月  
解説なしで飲むカクテルに  
せつなき思い噴きこぼる。

王は母の傍らにあって、瞬間の海を渡らせる。リハーサル通りに父が遂げた復讐を語る。今お前が目にした無数の刹那の中に、いささかの硝煙の香りが漂うなら、それも含めて覚えていてやれ。忘れずに大切に思うことのみが、残された者にできる最上の弔いなのだから。

店々つないで再び出会ったふたりは、  
「笑み見せ綱引きする子らを見ずにすむ、  
豪雪ならばむしろ良い」と気が合うが、  
すみかも心も移設なし、見知らぬ男女となり果つる。

王は亡霊どもの首根っこをつかみ、店を出る。語り部め、二人を引き合わせるとは、余計な世話を焼いたもの。撃ち殺された亡霊どもの無念の力波をこんな浪花節に使いおって。おかげでわたしは用済みになった。このけだものどもを始末してくれん。

あまたの刹那漂うバーカウンターに  
見知らぬ男女が目を見交わす刹那  
せつなしとは、言い得て妙。  
思いつのり寄せ津波のごとし。

(「刹那」 ordered by くーsan/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

## 感謝の言葉と、お願い&お誘い

---

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

## 刹那詩

<http://p.booklog.jp/book/41205>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/41205>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/41205>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.